

＜評価について＞
 評価をするにあたっては、以下のような基準で行なっています
 A 十分できている B おおむねできている C やや不十分 D 改善を要する

	自己評価の観点	項目	内容及び課題	評価	
保育理念	子どもの最善の利益の考慮	子どもの人権の尊重	子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりを大切に する保育を行っている	B	
		保育方針・保育目標	保育理念・指針・保育目標について理解し作成している	B	
子どもの発達援助	子どもの福祉を増進することにもっともふさわしい生活の場	健康・安全で心地よい生活	子どもが快適に過ごせるような環境への配慮がされている	B	
		子どもの主体的な生活	子どもの主体的な遊びを尊重している	B	
		人との関わりを育む環境	遊びや生活を通して、子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮している	B	
	生活と発達の連続性	子ども観・発達観の理解と共有	保育指針や理念を理解し、子どもを愛護しながら育むことを共有している	B	
		発達過程に応じた保育	発達過程を踏まえ、保育過程を作成し、保育している	A	
		個人差への配慮	一人ひとりの子どもの発達に配慮している。 プライバシーへの配慮がされている。	B	
		生活への連続性	長時間保育のための環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	A	
	養護と教育の一体的展開	乳児保育	乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	B	
		1・2才児の保育	1・2才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	B	
		3・4・5才児の保育	3・4・5才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	A	
		小学校との連携	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかわりに配慮している	A	
	環境を通して行う保育			子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A
				子どもが基本的に生活習慣を身につけ、積極的に活動ができるような環境が整備されている	B
				子どもが自発的に活動できる環境が整備され、身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがされている	B
				遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している	A
		環境の構成・再構成	快適な環境に整備や空間を使っの工夫している	A	

保護者に対する支援	家庭との緊密な関係	子どもの成長の喜びを共有	子どもの様子について日々、保護者に伝えるなど情報を共有し、成長を喜び合い、共有できる機会を設けている	A
		保育内容等の説明・応答責任	入所時、個々面談、保育参観等の機会をとらえ、説明・応答する機会を設けている	A
		子育てに関する相談・援助	相談・苦情・意見などは、随時園長・主任が窓口となり対応している	A
		保護者への個別支援	一人ひとりの保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、支援している	B
	地域における子育て支援	保育所機能の開放	公開保育や電話相談、交流保育など子育て支援のための取り組みを行っている	C
		関係機関との連携	保育所として必要な社会資源を明確にし、地域の関係機関との連携が適切に行われている	C
		情報提供	保育所が有する機能を地域の子育て支援に関する情報提供をしている	B
保育を支える組織的基盤	健康及び安全の実施体制	健康の保持及び増進	全職員が健康及び安全に関する共通理解を深め、適切な分担と協力の下に年間を通じて取り組んでいる	A
		安全・衛生管理	安全管理のマニュアルがあり、緊急時に備えた安全対策が実施されている	B
			施設の環境を常に適切な状態に保持し、衛生管理に努めている	A
		家庭や保健・医療機関等との連携	安全対策のために職員への共通理解、体制作りを図るとともに家庭や諸機関との連携をとっている	B
	職員の資質向上	保育の計画	全体的な計画・年間計画に基づき、月間計画・週案・日案及び個人の計画を行っている	A
		保育士等の自己評価	保育計画に添い自らの実践と、子どもの育ちを振り返り、自己評価を行い、保育の改善を図っている	A
		保育所の自己評価	自己評価表に基づき、行っている	A
		研修	外部研修・園内研修など職員に応じた研修を行い、資質の向上に努めている	A
	運営・管理・社会的責任	法令等の遵守	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている	B
		個人情報の取扱と苦情解決の責任	個人情報の取り扱いは誓約書で確認し、苦情・意見などは随時園長・主任が窓口となり解決に向けて対応している	B
施設長の責務		自らの役割と責任を明確にし、理解を図っている	B	

<総合評価>

子どもの人権については、職員間の共通意識を高めるために「子どもを尊重する保育のために」という勉強会を行い、法人としての基本をまとめ職員に周知した。

今年度5月からコロナウイルス感染症が法定伝染病5類に変更となったが、以前のように行事を行うことには不安を感じたため、前年度と同じようなやり方ですすめていった。できること、どうしたらできるかを考え、子どもたちにとって有意義な1年になるよう努めた。また、今後の行事等もさまざまな感染症対策を考えつつ、以前のような行事開催を無理のない範囲で考えていきたい。

分園わかば（0～2歳児）との交流を多くもつようにした。特に、2歳児は3歳児クラスになると分園わかばから本園での生活を送ることになるので、職員と検討をし3月最終1週間は本園で生活を送るスケジュールを組んだ。今後もそのようにしていきたい。

R4年4月1日に分園わかばはオープンしたので、日々の保育の中で気付いたり、検討することがあるが、その都度、分園わかばの職員と話し合っていき、子どもたちにとって最善の利益を考えていけるようにしている。

<評価について>
 評価をするにあたっては、以下のような基準で行なっています
 A 十分できている B おおむねできている C やや不十分 D 改善を要する

	自己評価の観点	項目	内容及び課題	評価	
保育理念	子どもの最善の利益の考慮	子どもの人権の尊重	子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりを大切に する保育を行っている	A	
		保育方針・保育目標	保育理念・指針・保育目標について理解し作成している	A	
子どもの発達援助	子どもの福祉を増進することにもっともふさわしい生活の場	健康・安全で心地よい生活	子どもが快適に過ごせるような環境への配慮がされている	A	
		子どもの主体的な生活	子どもの主体的な遊びを尊重している	B	
		人との関わりを育む環境	遊びや生活を通して、子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮している	B	
	生活と発達の連続性	子ども観・発達観の理解と共有	保育指針や理念を理解し、子どもを愛護しながら育むことを共有している	A	
		発達過程に応じた保育	発達過程を踏まえ、保育過程を作成し、保育している	A	
		個人差への配慮	一人ひとりの子どもの発達に配慮している。 プライバシーへの配慮がされている。	A	
		生活への連続性	長時間保育のための環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	A	
	養護と教育の一体的展開	乳児保育	乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	A	
		1・2才児の保育	1・2才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	A	
		3・4・5才児の保育	3・4・5才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	A	
		小学校との連携	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮している	A	
	環境を通して行う保育	保育の環境 ・人的環境 ・物的環境 ・空間 ・自然や社会現象		子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A
				子どもが基本的に生活習慣を身につけ、積極的に活動ができるような環境が整備されている	B
				子どもが自発的に活動できる環境が整備され、身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがされている	A
				遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している	A
		環境の構成・再構成	快適な環境に整備や空間を使っでの工夫している	B	

保護者に対する支援	家庭との緊密な関係	子どもの成長の喜びを共有	子どもの様子について日々、保護者に伝えるなど 情報を共有し、成長を喜び合い、共有できる機会を設けている	A
		保育内容等の説明・応答責任	入所時、懇談会、保育参加等の機会をとらえ、説明・応答する機会を設けている	A
		子育てに関する相談・援助	相談・苦情・意見などは、随時園長・主任が窓口となり対応している	A
		保護者への個別支援	一人ひとりの保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、支援している	A
	地域における子育て支援	保育所機能の開放	公開保育や電話相談、交流保育など子育て支援のための取り組みを行っている	B
		関係機関との連携	保育所として必要な社会資源を明確にし、地域の関係機関との連携が適切に行われている	C
		情報提供	保育所が有する機能を地域の子育て支援に関する情報提供をしている	B
保育を支える組織的基盤	健康及び安全の実施体制	健康の保持及び増進	全職員が健康及び安全に関する共通理解を深め、適切な分担と協力の下に年間を通じて取り組んでいる	A
		安全・衛生管理	安全管理のマニュアルがあり、緊急時に備えた安全対策が実施されている	A
			施設の環境を常に適切な状態に保持し、衛生管理に努めている	A
		家庭や保健・医療機関等との連携	安全対策のために職員への共通理解、体制作りを図るとともに家庭や諸機関との連携をとっている	A
	職員の資質向上	保育の計画	全体的な計画・年間計画に基づき、月間計画・週案・日案及び個人の計画を行っている	A
		保育士等の自己評価	保育計画に添い自らの実践と、子どもの育ちを振り返り、自己評価を行い、保育の改善を図っている	A
		保育所の自己評価	自己評価表に基づき、行っている	A
		研修	外部研修・園内研修など職員に応じた研修を行い、資質の向上に努めている	A
	運営・管理・社会的責任	法令等の遵守	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている	A
		個人情報の取扱と苦情解決の責任	個人情報の取り扱いは誓約書で確認し、苦情・意見などは随時園長・主任が窓口となり解決に向けて対応している	A
		施設長の責務	自らの役割と責任を明確にし、理解を図っている	B

<総合評価>

新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、園の行事等は子どもたちに無理のないように少しずつ以前に戻していくようにしていったが、地域との交流についてはまだ保留にしている。
 会議などで職員がいろいろな意見を出し合い、園児が安全にかつ、楽しんで過ごせるように工夫をした。
 配慮が必要な園児に対しては、療育機関と連携をとったり、園内での過ごし方を話し合い、無理のないように保育をしていった。また、保護者については、仕事以外（疾病など）での預かり保育の実施、保護者が意見を言えるような環境づくりを整え、子育ての悩みを聞くようにした。そのことで保育者も、今何を求められているかがわかり、保護者に寄り添えるようになったように感じる。
 苦情については、職員の対応についてのもが多く、全員で周知、反省をし、言動を改めるよう努めた。また園内で発生した苦情は、法人にも伝え、指導をうけたものもあった。
 職員の面談も年2回行い、個人的な意見を聞き、今後も職員の意識を変えながら、改善すべきところは改善をしていき、子どもたちと職員が楽しく過ごせるような保育を考えていきたい。